

環境経営レポート

(2023年4月～2024年3月)



作成日 2025年2月28日

新丸新志鷹建設株式会社

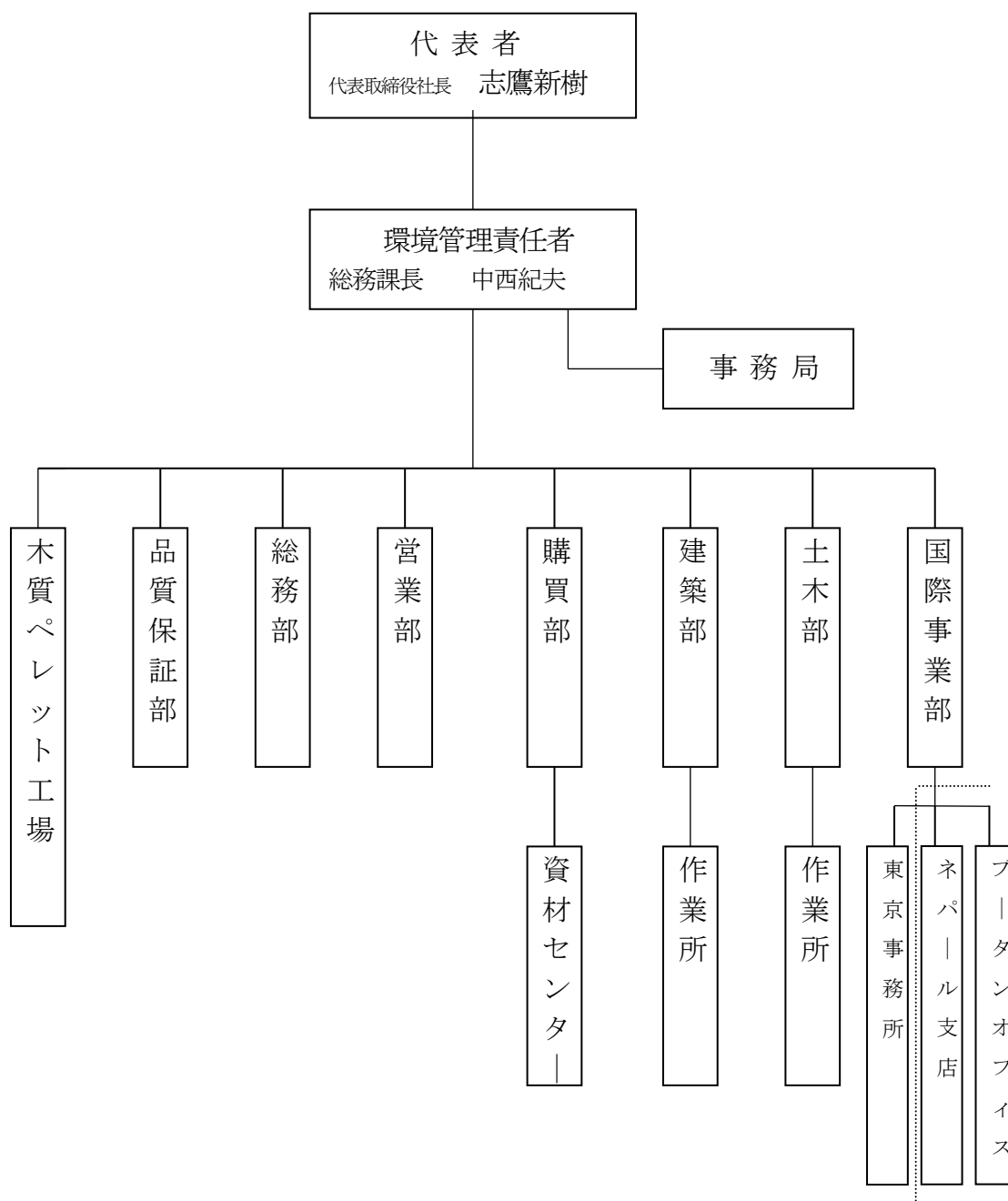
目 次

	頁
1. 組織の概要（事業者名、所在地、事業の概要、事業規模など）	1
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	2
3. 環境経営方針	3
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画	6
6. 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容	7
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と評価 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	8
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	10
9. 代表者による全体評価と見直し・指示	11

1. 組織の概要

- I. 会社名 丸新志鷹建設株式会社
- II. 代表者 代表取締役社長 志鷹新樹
- III. 所在地
- | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------|
| 本 社 | 富山県中新川郡立山町芦峯寺 4 9 番地 | TEL076-481-1201 |
| 志鷹会館 | 富山県中新川郡立山町芦峯寺 1 番地 | |
| 建築部 | 富山県中新川郡立山町前沢 2 3 3 0 番地 | TEL076-464-1567 |
| 資材センター | 富山県中新川郡立山町芦峯寺荒谷 | TEL076-482-1427 |
| ペレット工場 | 富山県富山市中大浦 4 3 番地 | TEL076-483-1220 |
| 車両センター | 富山県中新川郡芦峯寺出し割 5 番地 | TEL076-481-1031 |
| 「生コンクリート工場は、現在休業中」 | | |
| 東京事務所 | 東京都千代田区四番町 4 - 9 東越伯鷹ビル | TEL03-6261-4853 |
- IV. 環境保全関係の責任者及び連絡先
- 環境管理責任者
- 総務課長 中西紀夫 E-mail nakanishi@shitaka.co.jp
- V. 事業の内容
- ・建設業：許可番号 富山県知事 許可（特 — 28）第13624号
 - 土木工事 建築工事 大工工事 とび・土工工事
 - 石工事 造園工事 水道施設工事 管工事
 - 舗装工事 防水工事 鋼構造物工事 塗装工事
 - 内装仕上工事
 - ・一級建築士事務所 富山県知事登録 第（4）946号
 - ・木質ペレット製造販売
- VI. 事業の規模（2024年3月31日現在）
- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 創 業 | 1952年4月5日 | |
| 工事完成高 | 173,324万円 | （国内168,858万） |
| 木質ペレット売上高 | 4,408万円 | |
| 資本金 | 4,800万円 | |
| 従業員 | 55名 | |
| 床面積 | 本 社 | 445㎡ |
| | 志鷹会館 | 598㎡ |
| | 建築部 | 717㎡ |
| | 資材センター | 800㎡ |
| | ペレット工場 | 975㎡ |
| | 車両センター | 289㎡ |
| | 東京事務所 | 62㎡ |
| | 合 計 | 3,886㎡ |

2. 対象範囲 (点線は認証登録範囲)



役割・責任・権限

社長： EA21 に関する全てに責任と権限を持ち、環境管理責任者を任命する。

環境管理責任者： EA21 の運営と実施及び社長への報告。

各部所場長： 環境管理責任者の指示に従って、部署の目標・計画を立案「環境活動計画」を実行する。

従業員： 会社の方針、部所場の目標・計画に従って実行する。

事務局： 環境管理責任者の補佐

レポートの対象期間： 2023年4月～2024年3月

発行日： 2025年2月28日

※ 国際事業部については、2017年4月より対象としているが、ネパール支店・ブータンオフィスは除外している。

3. 環 境 経 営 方 針

丸新志鷹建設株式会社は、地球的規模の環境保全が叫ばれている今、自然と人間がバランス良く共存して行く為、「人と自然との共存」をテーマに、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

(1). 次のことに重点的に取り組みます。

- ① 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ② 廃棄物の3R(減量、再利用、再生利用)の推進
- ③ 水資源の節約
- ④ 作業現場に於ける環境に配慮した重機械の利用、工法採用の取り組み
- ⑤ 木質ペレットの販売量拡大

(2). 環境に関連する法規制・業界の取り決め・地域との協定を遵守します。

(3). 環境への取組を環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

(4). この方針を全員に周知し、全員参加で取り組みます。

制定日:2009年4月1日

改訂日:2023年4月1日

富山県中新川郡立山町芦峯寺49

代表取締役社長

志鷹 新樹

4. 環境経営目標

(1). 目標設定

2022年(令和4年)度まで2018年(平成29年)を基準年として中長期目標を設定し二酸化炭素削減等の活動をしてきた。二酸化炭素排出量は5年を一区切りとして、2023年度からは2022年4月から2023年3月までの2022年度を1年間環境負荷状況を基準値として、環境目標を設定した。

中長期環境目標は、2027年度を基準年の95%に設定する。

尚、現場の二酸化炭素排出量は、受注高で左右されるのでチェックリスト管理している。

各年度4月から翌年3月までの実績をもとに比較を行う。

事務所(本社、志鷹会館、資材センター)、現場、木質ペレット工場の部署毎に実施する。

尚、産業廃棄物については、リサイクル率が95%以上で、判定を○とする。

上水道の排出量、一般廃棄物及び紙類排出量については、事務所及びペレット工場の上限値を設定している。

木質ペレット工場は、ペレットの生産量に応じた目標をたてた。

2022(令和4)年度の生産量を基準とし、比例で令和5年度分を計算する。

比例で計算した数値に2023年(令和5年)度 99%に設定する。

又、中長期環境目標は、2027年度を基準年の95%に設定する。

例、 2022年度ペレット生産量 753.5t 二酸化炭素 121.588kg-CO₂

2023年度の生産目標を800tとする。

よって、2023年度の二酸化炭素の目標値は

$$121,588 \div 754 \times 800 \times 0.99 = 127,715 \text{Kg-CO}_2 \text{である。}$$

作業現場における環境に適した重機等の利用については、今現在排ガス規制対象の重機等はすべての工事現場で積極的に使用されている。これからも維持していきたい。

4-1 とやまペレットで、富山県の間伐材を有効利用

木質ペレットは、環境にやさしいエコエネルギーです。とやまペレットの原料は、富山県の森林からの間伐材や、間伐材加工工場から発生する端材などで、再生可能な資源である木材の総合的な利用に役立っている。また、木質ペレットを燃やす時に出る二酸化炭素は、原料である木が生長するときに吸収した二酸化炭素だけです。化石燃料と違って大気中の二酸化炭素を増加させることがなく、地球温暖化防止にも役立っています。



5. 環境経営計画

(1). 電力、燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

- ① 不要照明の消灯
- ② 冷暖房温度の設定標準化
- ③ 冷暖房使用時間の規制
- ④ アイドリングストップ
- ⑤ エコ運転の徹底

(2). 廃棄物3R（減量、再使用、再生利用）の推進

- ① 廃棄物持ち込み量の減量
- ② コピー用紙の両面使用
- ③ 再利用の促進（コピー用紙裏面使用）
- ④ 新聞、雑誌、ダンボール等を資源回収に出す。

(3). 水資源の節約

- ① 節水対策
- ② 漏水防止

(4). 作業現場に於ける環境に配慮した重機械の利用、工法採用の取組

- ① 排ガス対策をした重機械の積極的な利用
- ② 工法採用については、工事内容及び工事場所があれば取組む。

(5). 木質ペレットの販売量拡大（化石燃料の減少）

- ・官公庁、民間を問わず、積極的な営業活動を行う。
- ・大口需要施設の開拓

6. 環境目標の実績

(2023年4月～2024年3月) 環境活動計画の実施状況(合計)

項目	単位		2022年度 基準値	2023年度 目標	2023年度 実績	2024年度 実績	長期 2027年度 目標	2027年実績
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	一部チェック リスト判定	500,207	495,204	556,592		475,196	
産業廃棄物排出量削減 (再資源化率)	%	95%以上	100.0	100.0	100.0		100.0	
排水量削減	m ³	上限値 550m ³ 以下	214	300	232		300	
環境に配慮した重機械利用 利用率	%	100	100	100	100		100	
ペレット販売量の拡大 生産量	t		753.5	800	744		800	

* 電力の二酸化炭素排出量の排出係数は、基準年(2022年)0.484(kg-CO₂/kWh)で、計算しています。

2023年度年度事務所と建設現場及びペレット工場の目標値は、2022年度を基準年としています。

* 化学物質は使用していません

6-1. 中長期の環境目標

(2023年4月～2027年3月) 環境活動計画

項目	単位		2023年度 目標	2023年度 実績	2024年度 目標	中期 2025年度 目標	2026年度 目標	長期 2027年度 目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	一部チェック リスト判定	495,204	556,592	490,202	485,200	480,198	475,196
産業廃棄物排出量削減 (再資源化率)	%	95%以上	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
排水量削減	m ³	上限値 550m ³ 以下	300	232	300	300	300	300
環境に配慮した重機械利用 利用率	%	100	100	100	100	100	100	100
ペレット販売量の拡大 生産量	t		800	744	800	800	800	800

7. 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1). 二酸化炭素排出量の削減について

2023 年度は目標値をクリア出来なかった。国内工事受注増による現場でのガソリン、軽油の燃料使用量の増加と昨年に続く冬期除雪増加による軽油使用量の増加が原因と考えられる。

しかしながらペレット工場においては目標値をクリアしている。

(2). 廃棄物排出量の削減について

産業廃棄物排出量は、その年の工事受注により決まるので、量の判定ではなく再資源化率での判定とした。

令和 5 年度は産廃業者に出しているすべての廃棄物は再資源化されており問題はなかった。次年度も維持していきたい。

一般廃棄物も上限値を設定して管理した。問題はなかった。

(3). 総排水量の削減について

上水道を引いている所は、本社、建築部、ペレット工場だけである。

現場は、本社・建築部及び家庭から、水道水を運んでいる

量は毎年、驚くほどの変化はない。よって、上限値を設定して管理した。特に問題はなかった。

(4). 本社事務所における LED 照明への変換、ならびにエアコンの導入

一昨年 6 月、本社事務所において LED 照明への変換ならびにエアコンを導入した。灯油の使用量があまり減少しない割に冬期の電力使用量は増加した。

(5). その他

林業の活性化とペレットボイラー及びストーブの普及による化石燃料を減少させることにより、今後も二酸化炭素の発生抑制を図っていきたい。

7－1 次年度の取り組み

(1). 電力、燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

- ①不要照明の消灯
- ②冷暖房温度の設定標準化
- ③冷暖房時間の制限
- ④アイドリングストップ
- ⑤エコ運転の徹底

(2). 廃棄物 3 R（減量、再使用、再生利用）の推進

- ①廃棄物持ち込み量の減量
- ②コピー用紙の両面使用
- ③再利用の促進（コピー用紙裏面使用）
- ④新聞、雑誌、ダンボール等を資源回収に出す

(3). 水資源の節約

- ①節水対策
- ②漏水防止

(4). 作業現場の於ける環境に配慮した重機械の利用、工法採用の取組

- ①排ガス対策をした重機械の積極的な利用
- ②工法採用については、工事内容及び工事場所があれば取り組む。

(5). 木質ペレットの販売量拡大（化石燃料の減少）

8. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

厳守しなければならない環境関連法規、条例及びその他の規制をまとめたチェックリストを作成し確認をしていますが、いずれの法令も厳守されており、過去3年以上違反、訴訟はありません。

環境関連法規のとりまとめ

	法規名	対象物	遵守状況
1	廃棄物処理法	産業廃棄物 (廃プラ、木くずなど)	○
2	建設リサイクル法	特定建設資材 (コンクリート、コンクリート鉄木材、アスファルト)	○
3	騒音規制法	特定建設作業 (くい打ち、びょう内機など)	○
4	振動規制法	特定建設作業 (くい打ち、ブレーカー作業など)	○
5	大気汚染防止法	ばい煙発生施設 木燃料ボイラー	○
6	石綿障害予防規則	解体工事	○
7	フロン排出抑制法	業務用エアコン	○
8	自動車リサイクル法	自動車	○
9	消防法	消防設備	○
10	浄化槽法	浄化槽	○

9. 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

(1). 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

電力消費量は増加しているが、灯油、軽油、ガソリンの燃料消費量は減少している。
工事量、除雪量の増減によって一概には比較できないが、小さな積み重ねが二酸化炭素排出量の削減につながっている。

(2). 廃棄物の3R（減量、再利用、再生利用）の推進

概ね良好に推移していると思われる。

再利用、再生利用に工夫して再生利用率 100%に近づける。

(3). 水資源の節約

水の使用量は少ないが、節水に努める。

(4). 作業現場に於ける環境に配慮した重機械の利用、工法採用の取り組み

エコを考慮した新工法がいろいろ開発されているので、情報を収集して新工法採用を検討していくこと。又、当社及び下請業者の使用機械についても環境に配慮した重機械の使用について、指導を継続する。

総合評価

エコアクションについては、全社員が取り組みに努力している。
節電の試みは各分野で創造実践していきたい。
木質ペレット販売の営業強化を図り、生産量の増大につなげたい。受け入れ量、施設許容量等が課題である。